

第48回新型コロナウイルス感染症に係る危機対策本部会議
(新型インフルエンザ等対策本部会議) 議事録

日時：令和3年8月11日(水) 13:10~13:33

場所：第三応接室

○坂本危機管理局次長

ただいまから第48回新型コロナウイルス感染症に係る危機対策本部会議を開催いたします。

本日の手話通訳者は古田美絵さんと、障害福祉課 山上美紀さんのお二方です。はじめに危機対策本部の対応状況等につきまして統括調整部長より説明いたします。

○橋本統括調整部長

それでは資料1、危機対策本部の対応状況という資料を御覧ください。本日の本部会議の開催趣旨ですが、県の対処方針に変更ございませんが、最近の新型コロナウイルス感染症の感染状況ですとか、それからお盆を控えた時期であるといったようなことから新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止に向けた対応の確認を行うというものでございます。発生状況等につきましては、このあと健康福祉部から説明があります。県の対応、各部の対応状況については2ページ以降、変更部分をアンダーラインで付してございますので、後ほど御確認いただければと思います。この資料の説明については以上です。

○坂本危機管理局次長

感染症の状況等につきまして、健康福祉部長より説明いたします。

○奈須下健康福祉部長

では資料2と資料3に基づきまして、新型コロナウイルス感染症の現在の状況について御報告いたします。まず資料2です。昨日8月10日16時30分現在の感染者の状況等について記載しております。これまでに判明した感染者2,909名、そのうち現在入院中の感染者が71名、宿泊療養施設利用者93名、自宅療養者が21名となっております。なお、昨日16時30分以降、現時点までに新たに59名の陽性者が確認されております。それから検査の状況については8月10日16時30分現在で59,402件、相談センターへの相談の件数については43,764件となっております。

次のページを御覧ください。1番上の表ですが、入院患者、現時点で入院されている方71名のうち重症者は0、中等症の方が10名となっております。資料2の説明は以上です。

続きまして資料3に基づきまして、現在の感染の状況等について御報告いたします。1番、陽性者数の推移です。これは判明した日ごとの陽性者の数ということになりますが、7月下旬から感染が急拡大している状況が見てとれると思います。

次のページを御覧ください。新規系統数の推移です。これにつきましても7月下旬から急激に増えている状況にあります。中でもこのグラフの緑色で示した部分、県外関連が目立って増えてきております。

次に3番、感染症の発生状況です。居住地保健所別のこれまでの累計の感染者数の状況です。次のページ4番、感染者の年代別の割合についてのグラフになります。8月のグラフでは20代・30代が41パーセントとなっております。20代・30代の若い世代の感染者が増えております。7月、8月の感染症患者のうち6割以上が30代以下となっております。

次に5番の陽性者数の推移、これは圏域別の陽性者数の推移のグラフになります。

次に1ページおめくりください。療養者数の推移のグラフです。先ほども申し上げましたが、20代・30代、若い世代の感染者数が多くなっております関係で、宿泊療養者が増えております。

7番の圏域別の病床使用率です。現在、青森県全体の病床使用率は24.7パーセントとなっております。国の指標でいきますとステージⅢに相当する使用率となっております。圏域別に見ますと西北五地域、津軽地域、八戸地域での病床使用率が高くなっております。西北五地域については国の基準でいきますとステージⅣ相当というふうに、かなり地域によって病床がひっ迫しつつある状況にあります。なお、県の確保病床数につきましては昨日から13床増えまして、現時点で288床となっております。

次のページを御覧ください。8のワクチン接種状況についてでございます。右側のグラフについては高齢者65歳以上の接種のグラフになります。赤色の折れ線の2回目接種を完了した方が80.53パーセントとなっており、高齢者の接種につきましては順調に進んでいると思われま。なお、左側のグラフにつきましては高齢者を含む一般の接種の状況となっております。

次にその下の8月の感染事例について、その感染経路別に整理したのになります。約21パーセントが帰省・県外関連の感染事例となっております。また、約12パーセントが普段一緒にいない方等との会食による感染となっております。1ページおめくりください。

変異株の発生状況についてです。8月に陽性が確認された方のうち、変異株の検査を実施した方々については全て変異株であることが判明しております。そのうちN501Yが12パーセント、L452Rが88パーセントとなっております。この特にL452R変異株ですが、感染性が従来ウイルスよりも高い可能性が指摘されております。また、重症化しやすい傾向も指摘されております。従いまして、L452R株に置き換わることによりまして、急速な感染拡大と、さらには若い方でも重症化する、入院する必要が生じてまいりますことから、病床がひっ迫し、医療への負荷の増大が懸念されております。

次にワクチンの効果についてです。先ほどワクチンの接種率について御報告いたしましたが、この高齢者へのワクチン接種が順調に進んだこともありまして、60歳以上の感染者の割合がかなり減っております。8月につきましては10パーセント程度と、一定のワクチン接種の効果が表れていると考えております。ただしワクチンを2回接種済みの方でも感染した事例が県内で17名確認されております。したがって、ワクチン接種を完了しても基本的な感染防止対策を継続していただくことが必要である、重要であると考えております。

次のページを御覧ください。これは、7月下旬から感染が急拡大しておりますが、この中で特徴的なのが県外から来た人との接触で感染した事例が増えていると。特に県外から来た方と会食ですとか旅行、その他のレジャーなどで一緒になって感染したという例が散見されます。また、帰省により実家に帰ってその家族に感染させている事例も散見されております。現在、夏休み、これからまたお盆の時期でございますけれども、たとえば、家族の方、親戚、友人であっても、普段一緒にいない方との会食等は避けるという、こういった呼びかけを繰り返し行っていくことが必要と考えております。

また、その下の図ですけれども、学校で感染した事例が引き続き散見されております。特に運動に関する部活動でのクラスターの発生が確認されています。運動の合間での生徒・教員との会話あるいは控室の共用、こういったことは感染のリスクが高まります。特に複数の学校が一堂に会する大会などは、非常に感染リスクが高まります。したがって、こういった運動にかかわる部活、あるいはその大会などを開催する場合には、感染防止対策を徹底することと、参加する方全員がルールをしっかりと守ることを繰り返し働き掛けていくことが必要だと考えております。私からの報告は以上となります。

○坂本危機管理局次長

ここまでの説明に関しまして質問等ございましたら、よろしいですね。それでは本部長より指示事項とメッセージをお願いいたします。

○三村本部長

まず指示事項です。

現在、私ども青森県におきましても、各地でクラスターが発生しております。感染経路不明の案件や県外から来た方との接触による感染も増加するなど、感染の拡大が見られ、このまま感染拡大が進みますと再び病床がひっ迫し、医療崩壊につながりかねないと考えております。

普段会わない方々と接する機会も増えるお盆が目前となっております。

各部にあっては、引き続き、感染拡大防止の観点から、県内外の感染状況等を十分踏まえますとともに、社会経済活動の維持にも意を用いながら、それぞれの所管分野における課題等にしっかりと対応していただきたいと思っております。

特に、夏休み期間中に多くの方が利用する県有施設等におきましては、改めて、これは先日来お願いしておりますが、感染防止対策を徹底するようよろしくお願いいたします。

また、こういった期間でも積極的疫学調査、PCR検査、感染症患者への対応など、感染症対策に従事している職員が、多数おります。その皆様方には、引き続き御苦勞をお掛けしますが、よろしくお願いいたします。

このほか、職員各位にあっては、改めて健康管理や感染防止対策を徹底するようお願いいたします。

以上、県庁のチームワークをもちまして、全庁体制でしっかりと取り組むよう指示をいたします。

続いて、県民の皆様方にお話をさせていただきます。

繰り返しの部分もございますが、先日（8月6日）の定例記者会見でも申し上げましたとおり、青森県内でも、各地でクラスターが発生し、感染経路不明の案件や県外から来た方との接触による感染も増加するなど、感染の拡大が見られ、大変危惧される状態であります。

最近では、家族の誰かが感染し、家族全員に広がるというケースや、これから正式に発表ということになると思うのですが、運動に関する部活動で多数感染するケースも増えております。また、感染力が強く重症化しやすいL452R変異株に置き換わりつつあり、先ほどもいわゆる変異株関係の調査をしたところの8割方、この傾向が出てきたというところを部長の方からも話しましたが、食事や長時間の会話以外でも容易に感染する事例が増えてきているという状況です。このまま感染拡大が進みますと、再び病床がひっ迫して医療崩壊につながりかねないということを考えております。

本当に繰り返しでありますけれども、普段会わない方々と接する機会も増えるお盆を目前にして、改めて、県民の皆様方に感染拡大防止に向けた注意喚起とお願いをさせていただきます。

このところ、宴会やバーベキューでの感染症対策が不十分な場合に感染が広がる事例が多くなっております。お酒で気が緩み感染リスクが高まる行動をしている事例も見られているという状況です。

また、8月の感染データによりますと、時節柄、「帰省者及び県外から来た方」という方々に関する感染割合が約21パーセント、ここに「普段一緒にいない人」との飲食等による感染割合を合わせますと、実に3割以上が、これまで繰り返しお願いしてきた「普段一緒にいない人」との接触ということでもあります。

いよいよお盆が近づいたので同じことを申し上げますが、会食等は、「普段一緒にいる方」と少人数・短時間で感染症対策を徹底してお願いします。また、お酒が入る場合は健康全般を考えてもそうですが、適量でお願いいたします。

「普段一緒にいない人」との会食・会合等は、大人数でないとしても感染リスクが高まりますので、できるだけ控えていただきたいと思っております。

お盆やお墓参りという時期になってまいります。家族や親戚であっても「普段一緒にいない人」と接することもどうしてもあると思っておりますので、会話等の際にはマスク等基本的な感染防止対策をお願いしたいと思っております。感染防止対策については後でまたお話しします

けれど、消毒等含めてお願いいたします。普段であれば、気持ちが祖先の方と繋がったりとか、お墓でお供え物をいただくという風習もあるわけですが、今年はお供え物を頂く場面においても、普段一緒でない方とは避けていただきたいということと、みんなで集まって実家や親戚宅における大人数での会食・会合等も普段であれば青森の良さだと思うのですが、ここでの感染リスクというものが大変に高まります。繰り返しになりますけれども、何とぞ、このお盆期間においては、それぞれにお考えいただいて行動していただければと思います。

そして、変異株についても感染防止対策は同じです。マスクの適切な着用、ソーシャルディスタンス、手指消毒、換気ということを、これまで以上に徹底していただくことで、リスクを下げるというんでしょうか、それに尽きると思っております。

繰り返しにはなりますが、感染リスクが高まるお墓でありますとか、御実家などで集まるケースについては、何とぞ、それぞれが御自身だけではなく、感染対策ということを考えていただければと思います。

そして、風邪症状はもちろんのこと、だるさや喉・鼻の違和感が続くときは、人との接触を避け、速やかに医療機関に相談していただきたいと思っております。

そして、首都圏とか関西圏をはじめ、様々な措置が出ている地域がありますが、全国各地でこれまでにない勢いで感染が拡大しております。政府からも度々お話しているように、都道府県をまたぐ移動につきましては、今まで以上に注意が必要です。

そこで、感染症患者が多数発生している県外地域との往来につきましては、延期等を含め慎重に判断いただきたいと思っております。特に、緊急事態措置の地域、また、まん延防止等重点措置の実施区域との不要不急の往来につきましては、何とぞ避けていただきたいと思っております。

そして、こうした感染症患者の方が多数発生している県外地域にお住まいの方におかれましては、心待ちにしていた皆様方には大変申し訳ありませんが、夏休みやお盆における青森県への帰省や旅行等を控えるようお願い申し上げたいと思っております。しかしながら、時節柄、やむを得ず帰省される方もいらっしゃると思っております。改めて、先ほど申し上げてきました適切な感染防止対策の徹底ということと、何とぞお願いしたいと思っております。

感染拡大を食い止めていくためには、お一人お一人が、あらゆる場面で感染リスクを避け、これまで以上に慎重な行動と感染防止対策を徹底することが重要です。そして、青森県民の皆様方には大変御協力をしてきていただいたという状況ですが、重ねてお願い申し上げます。また、ワクチンの2度接種を完了しても感染が確認されている事例が見られております。ワクチンを接種した方も同様に、マスクと手指消毒等を含めて感染防止対策をそれぞれに徹底していただければと思います。

また、繰り返しお願いを申し上げてきましたが、お盆のこの時期というものは非常に重要な、故郷はいいなと思う時期ではありますが、新型コロナウイルス感染症の感染状況が今年には更に厳しい状況にありますことから、何とぞそれぞれお一人お一人が基本的な感染防止対策について御協力をいただければと思う次第です。

○坂本危機管理局次長

以上を持ちまして本日の会議を終了といたします。ありがとうございました。